

場所・面積 愛知県額田郡幸田町、面積：18.9 ha

管理目的 地域や社員の環境コミュニケーションの場、学びの場となり、地域の在来種や生物多様性保全と回復に貢献すること。

サイト概要 1972年の創立時から「緑豊かな公園工場づくり」を目標に、四季を感じる緑と工場の調和を考えた緑地整備を実施。隣接する森を「ソニーの森」と名づけ、遊歩道の整備、アスレチックや展望台を設置して、子どもたちに環境学習の場として活用。ソニーの森は、鳥獣保護区（愛知県幸田北部鳥獣保護区）に指定。「フクロウの棲む森づくり」、「在来種の苗木を育てる活動」を行っており、地元企業と協働し、地域の自然再生活動を実施。

土地利用の変遷 愛知県額田郡幸田町にある里山に1972年、弊社工場が設立しました。「みどりの公園工場」を目指して社員の手による緑地整備活動が実施され、工場の設立で一度失われた緑地を再生し、現在の緑地となる。



サイト周辺の環境 コナラや常落混交林など里山の環境が保全、岡崎市の市街地に隣接し、近隣地域に残された里地里山環境として立地する。

アピールポイント 愛知県では準絶滅危惧になっているフクロウの生息域であり、地域の在来種を保全する目的で愛知県の西三河生態系ネットワーク協議会へ参画し、どんぐりの苗木を作って植樹を行う活動を地域の団体と協力して行っている。また、地域の小学校の環境学習などで学びの場にも活用される「みどりの公園工場」である。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

工場設立時より続く社員の緑地整備により作られた森。
地域の里山の環境が維持されており、コナラなど在来種も多い
森にはフクロウを中心とした生態系があり多くの動植物が生息している。

【主な植生】

里山林の主な植生 コナラ、アベマキ、ヤマザクラなど
草地の植生 ウラジロ など

【確認された主な動植物】

下記のような動植物が確認されている。

- ・カワセミ (学名 *Alcedo atthis* 成体)
- ・ヤマガラ (学名 *Sittiparus varius* 成体)
- ・コゲラ (学名 *Dendrocopos kizuki* 成体)
- ・オニヤンマ(学名 *Anotogaster sieboldii* 成体)
- ・ヤマトタマムシ (学名 *Chrysochroa fulgidissima* 成体)
- ・シオカラトンボ (学名 *Orthetrum albistylum speciosum* 成体)
- ・コシアキトンボ (学名 *Pseudothemis zonata* 成体)

など



写真の撮影年月：2023年 5月
写真の説明： サイト内に存在する森の入口



写真の撮影年月：2021年 7月
写真の説明： 森で確認したヤマトタマムシ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

地域にとっても憩いの場や学びの場となるように遊具の設置や社外の環境学習、イベントの開催を受け入れている。
また、地域在来種の種を採取し植樹用苗木を作成して在来種の保全に貢献する愛知県のネットワーク事業を実施している。
森の中では様々な昆虫類や鳥類も確認されている。

【主な植生】

主な植生はコナラ、アベマキ、ヤマザクラ、スギ、ヒノキ

【確認された主な動植物】

- ・ノコギリクワガタ (学名Prosopocoilus inclinatus 成体)
- ・カブトムシ (学名 Trypoxylus dichotomus 成体)
- ・アオスジアゲハ (学名 Graphium Sarpedon 成体)
- ・ハグロトンボ (学名 Calopteryx atrata 成体)
- ・フクロウ (学名 : Strix uralensis 幼体)

など



写真の撮影年月：2022年7月
写真の説明： 森の中の様子



写真の撮影年月：2021年7月
写真の説明： 周辺で確認されたハグロトンボ

生物多様性の価値

価値(6) 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト内の森にあるフクロウの巣箱が設置されているエリア
高木も多く、フクロウが飛来しやすいように環境整備がされている。

【確認された希少種】

2021年 5月に森で実施した調査で下記の希少種を確認した。
フクロウ(学名：Strix uralensis 幼体 愛知県 レッドリスト 準絶滅危惧(繁殖))

森の中でフクロウの幼体を発見、繁殖していることが確認できた。



写真の撮影年月：2021年5月
写真の説明： 森の中に設置されている巣箱



写真の撮影年月：2021年5月
写真の説明： 森の中で確認されたフクロウ(幼体)

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

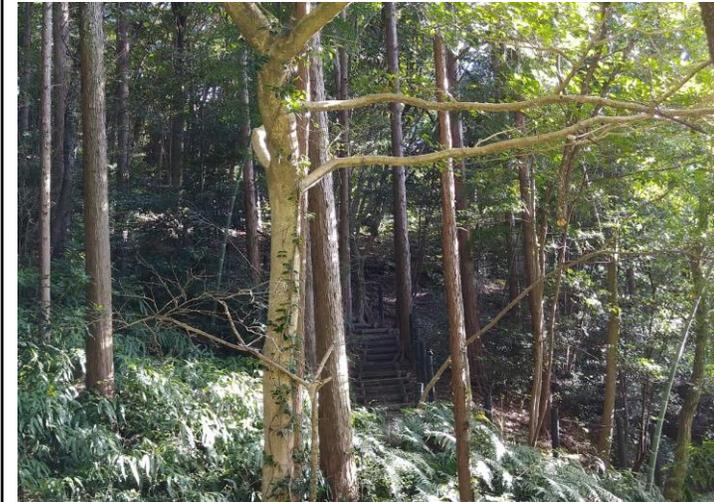
コナラや常落混交林の里山であり、定期的な手入れも行っているため林床に光が入りやすく、木々や下草の生育も良好。

【隣接・接続する保護地域等】

県の幸田北部鳥獣保護区の中に位置し、サイト外の鳥獣保護区の緑地と接続している。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

サイトに隣接する町の公園や周辺地域の緑地との緩衝機能を果たしている。



写真の撮影年月：2022年8月

写真の説明：森の中 遊歩道の様子



写真の撮影年月：2022年8月

写真の説明：森の中 下草の様子

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道を含む森内の整備のため、周辺の草刈りを定期的実施。(1回/月) ・支障枝や枯れ木を安全面や害虫防止のために伐採。(1回/月) ・9月～10月に苗木づくりに使用する在来種の種を採取。 ・フクロウの巣箱のメンテナンス・状況に応じて新しい巣箱設置 (1回/年) ・森内の遊具・柵・階段などを安全のためチェックして見回る (1回/年) 	<p>【モニタリング対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林や草地の昆虫 ・フクロウや野鳥 <p>【モニタリング場所】</p> <p>幸田町坂崎雀ヶ入 1 森の遊歩道に沿って奥にある広場周辺</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>愛知県より配布されるモニタリングハンドブックを見ながら森の中で発見した昆虫や野鳥をを確認する。 ※フクロウは巣箱や周辺の高木の枝に雛がとまっていなか確認する。</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>7月～9月頃 月に1回 ※フクロウの観察は5月中旬に1回</p> <p>【実施体制】</p> <p>西三河生態系ネットワーク協議会の活動として加盟団体や地域の方と協力して行う。</p>